

二九精密機械

ニッケルチタン 合金極細管 販売倍増目指す

来期、医療向け引き合い増

精密金属加工メーカーの二九精密機械工業(本社＝京都市南区、一丸良三社長)は来期(2019年3月期)、ニッケルチタン合金極細管の販売本数を年6万本への倍増を目指す。医療分野における高弾性パイプのニーズ増加を受け、加工・組み立て技術を生かした営業活動を展開。アジアを軸に海外市場での販路開拓にも注力する方針だ。

アジア軸に海外展開も

同社は医療機器や分析機器向けのステンレス、チタン、特殊金属などの難加工材部品を加工するメーカー。八木工場(京都市南区)で

機械加工、本社近くの京都工場(京都市南区)でベータチタン極細管

の生産や、ニッケルチタン合金極細管の加工を行っている。

ニッケルチタン合金極細管「ニチノール(Nitinol)」は

特殊合金専業メーカー・米メムリー社(コネチカット州)の製品。形状記憶性と超弾性を兼ね備えたパイプで高い復元力を持ち、手術処置器具などで長年実績を上げている。二九精密機械は13年から輸入販売を始めたが、ここに至り引き合いが増えているという。

製品サイズは外径0.18-3.0mm。取扱量の増加に伴って社内在庫も増え、サンプル出荷にも対応できる体制が整ってきた。京都工場では研磨・切断・曲げ・接合などの加工や、ノズル製品などの最終組み立てまで行うことができる。昨年8月にはフェムト秒レーザー加工機を新規導入し、バリの生じないスライアルやスリットの高精度加工が可能になるなど、加工体制を充実させてきた。

来期は「ニチノール」の販売と加工に注力し、販売本数ベースを今期比2倍を目指す。二九社長は「今は中国や東南アジアからの引き合いも多くなっている。アジアを軸に海外市場にも直接販路を開き、医療から一般産業まで幅広い需要の掘り起こしを目指したい」と話す。

同じく高弾性パイプにおいては、同社は12年に国内で初めて、チタン・バナジウム・アルミ系合金のベータチタン極細管の生産を始めている。製造可能なサイズは最小外径0.5mm、最小内径0.3mmで、15年までにドローパーチなどの設備追加して生産能力を順次拡大してきた。今後は需要が上向いてきた「ニチノール」を合わせた2本柱で、極細管ニチノールの開拓を目指す。